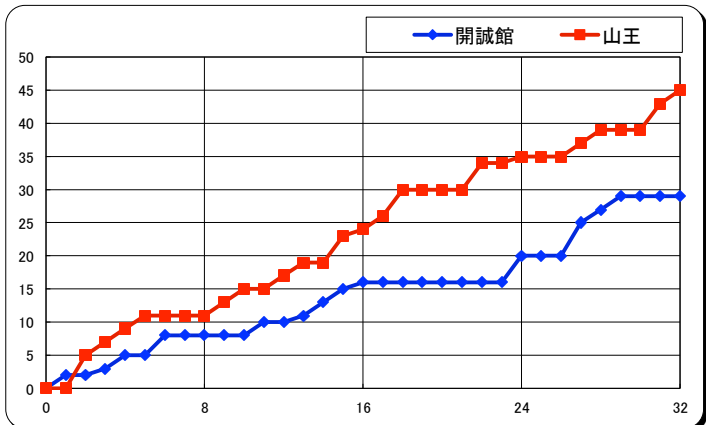




THE 44th ALL ALL JAPAN  
Jr HIGH SCHOOL  
BASKETBALL CHAMPIONSHIP

大会名	平成26年度全国中学校体育大会 第44回 全国中学校バスケットボール大会											
会場	高松市香川総合体育館											
日時	平成26年8月23日(土) 13:30											
コート	K Bコート	第4試合										
カテゴリー	男	予選リーグH										
主審	比嘉 涼太 (沖縄)											
副審	千原 翔太 (大分)											
Team A		Team B										
開誠館	29	45 山王										
静岡		秋田										
●		○										
	<table border="1"> <tr><td>8 1st</td><td>11</td></tr> <tr><td>8 2nd</td><td>13</td></tr> <tr><td>4 3rd</td><td>11</td></tr> <tr><td>9 4th</td><td>10</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td></tr> </table>	8 1st	11	8 2nd	13	4 3rd	11	9 4th	10		OT	
8 1st	11											
8 2nd	13											
4 3rd	11											
9 4th	10											
	OT											

【得点経過】



【BOXスコア】

Team A		開誠館						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則	
4	山口 那生	×	5	0	2	1	3	
5	鈴木 海生	DNP	0	0	0	0	0	
6	小池 俊真	DNP	0	0	0	0	0	
7	三室 礼揮	DNP	0	0	0	0	0	
8	伴 拓実	×	8	2	1	0	1	
9	田中 勇樹	×	3	0	1	1	3	
10	渡邊 伽也	DNP	0	0	0	0	0	
11	曾田 翔己	×	2	0	1	0	3	
12	佐原 和樹	/	2	0	1	0	0	
13	菅沼 英一	/	2	0	1	0	0	
14	荒木 友介	DNP	0	0	0	0	0	
15	松尾 智哉	DNP	0	0	0	0	0	
16	鈴木 利尚	DNP	0	0	0	0	0	
17	二村 遥	DNP	0	0	0	0	0	
18	神田 誠仁	×	7	0	3	1	4	
監督	尾藤 博己						0	
コーチ	鈴木 信一						0	
合計			29	2	10	3	14	

Team B		山王						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則	
4	広川 汰輝	×	11	0	5	1	2	
5	藤島 悠太	×	5	0	2	1	2	
6	児玉 海渡	×	20	0	9	2	3	
7	大野 湧史	×	0	0	0	0	4	
8	大嶋 洸輝	×	9	0	4	1	2	
9	新保 優弥	/	0	0	0	0	1	
10	佐藤 奨真	/	0	0	0	0	0	
11	吹谷 太郎	DNP	0	0	0	0	0	
12	三浦 駿太郎	DNP	0	0	0	0	0	
13	澤木 海里	DNP	0	0	0	0	0	
14	太田 弘人	DNP	0	0	0	0	0	
15	嵯峨 大輝	DNP	0	0	0	0	0	
16	阿部 聖磨	DNP	0	0	0	0	0	
17	阿部 竜翔	DNP	0	0	0	0	0	
18	佐藤 謙成	DNP	0	0	0	0	0	
監督	小納 英之						0	
コーチ	齊藤 徳子						0	
合計			45	0	20	5	14	

【戦評】

東海ブロック代表開誠館と東北ブロック代表山王の一戦。両者一敗同士の戦い。ここでの勝者がトーナメントへの出場となる。開誠館#18のシュートがネットをゆらし、ゲーム開始となった。開誠館はハーフコートマンツーマンDef。山王は3-2のマッチアップゾーン。山王はセンター#5、#6にボールを集め、ペイント内での得点を狙う。また、リバウンドからの早い攻めで流れをつかむ。開誠館もルーズボールにからみ、粘り強い戦いをしたが、開誠館8-11山王で1Qを終了。山王#8のドライブシュートが決まり、2Qの開始となった。山王はあくまでもツインタワーでペイント内でのOffを展開している。開誠館#9もするどいゴール下でのステップシュートで、大きいDefをかわしゴールする。残り9秒で#18のドライブシュートがファウルとなり、フリースローとなったが、両方とも外し、開誠館16-24山王で前半終了となった。

3Q開誠館からのインプレー。山王#8の多彩なドリブルワークでDefをかわし、得点を重ねる。開誠館はゴール下でのプレーを制限され、Offのリズムを掴めないまま、残り1分までDefを攻めきれず、開誠館20-35山王で最終Qへの望みをつなく。4Q開誠館のボールで試合開始。開誠館はシュートを試みるが、山王のリバウンドが高くなかなかリズムを取り戻すことができない。開誠館#8の3P、#18のゴール下でのシュートと連続得点するも、山王も連続得点で点数がなかなか縮まらない。開誠館は残り4分からオールコートでボールにプレッシャーをかけ、流れを変えようとしてくるが、開誠館29-45山王でゲーム終了となる。

【戦評記入者】

森永 夏樹